海津市まちづくり委員会「第６回グリーン・ツーリズム検討分科会」会議録

開 催 年 月 日　　平成 20 年９月４日（木）
開　催　場　所　　海津庁舎「委員会室」
分科会委員定数　　13 名
開　　会　　午後２時
閉　　会　　午後４時
出　　席　　者　○分科会委員

東海学院大学学長	杉　山　道　雄
岐阜県農業振興課　課長補佐	川　瀬　　昭
農業委員会代表	橋　本　輝　男
営農協議会代表	芳 賀 麒 一 郎
農業セミナー代表	近　藤　修　治
海津市商工会	鷲　野　勝　憲
木曽三川ブルーベリーの里	伊　藤　辰　博
海津市農林振興課主幹	中　島　　智
海津市商工観光課係長	大　倉　光　好
海津市生涯学習課係長	森　　悦　子

○事務局

企画政策課長	木　村　元　康
企画政策課係長	後　藤　政　樹
海津市企画政策課主任	毛　利　卓　司

欠席者

公募市民	伊 藤 啓 二 郎
農事改良組合連合会代表	西　脇　幸　雄
農業フォーラム２１代表	山　内　徳　男
海津市４Ｈクラブ	近　藤　栄　希

会　議　次　第　１．開会
２．協議
・ＧＴ資源の洗い出し、回流ルートの計画
・実施方法・ＰＲ方法の検討
・総括的な検討

３．その他
４．閉会

会議録（要約）

事務局	定刻になりましたので、ただいまから海津市まちづくり委員会、第６回グリーン・ツーリズム検討分科会を開催させていただきます。はじめに、企画政策課長の木村よりご挨拶申し上げます。 〈課長あいさつ〉 続きまして、橋本会長様よりご挨拶をお願いいたします。 〈会長あいさつ〉 ありがとうございました。 それでは進めさせていただきます。 本日はグリーン・ツーリズムの素案見本をお配りいたしました。皆さんに分かりやすく協議していただくためにお示しをさせていただきました。今までの分科会を踏まえて作成いたしましたので今回はこの素案見本について、検討・協議をしていただきたいと思います。資料内容について説明させていただきます。 （事務局説明） それでは、ただいま事務局でお示ししたグリーン・ツーリズム提案書素案見本について、詳細はともかく、プラン（事務局作成の素案見本 P6～P8 参照。Ａ～Ｅプランを作成。）としてどう思うか、感想、疑問、代替案など、前向きな協議をしていただき、発表をしていただきたいと思います。それでは、2 グループに分かれてそれぞれ協議をしていただきたいと思います。 （グループ協議） それでは、グリープでの協議・検討結果を発表していただきたいと思います。
１班発表	プランを検討しまして、Ｃ・Ｄ・Ｅは無理ではないかとの意見が出ました。 Ｃプランは、貸し農園を開いても農作物を作る指導者がいない、即対応できる体制がないと続かないと思います。 Ｄプランは、いくらパソコンが普及したとは言え、時期尚早なのではないかとの意見がありました。 Ｅプランは、今は生産者の顔の分かる農産物の販売、販売者の氏名や顔写真が貼ってあるという時代に、消費者の観点から言うと難しいのではないでしょうか。まだ、道の駅とかグリーンセンターで朝市をやるほうがよいのではないかという意見になりました。 プランの中で、実現可能と思われるものは、Ａ・Ｂだと思います。ただＢプランもど

	なたかにやっていただくのも難しいので、千代保稲荷などの郷土料理を出すようなお店にお願いするほうが現実的ではないでしょうか。ＡにＢを加えたり、Ｂに道の駅やグリーンセンターを加えるほうが実現可能なのではないのかという事が私たちのグループでの意見です。 また、クレール平田では、海津明誠高校が地産地消ということで、ハツシモを使った料理を考案して限定販売しております。Ｂプランにそういったことを組ませるのもいいのかと思います。
２班発表	Ａプランについては、観光ガイドがいないという問題がありますが治水神社などで歴史を語っていただける人がいてもいいのではないかという意見でした。 Ｂプランについては、料理愛好家が行うレストランは無理ですが、既存のレストランまたは飲食店で業務提携をしてやってもらうのであれば可能だという意見がでました。地元の野菜を使い、郷土料理をメニューとして出してもらう代わりに、各種パンフレットに提携店の広告を出すというようなことであれば実施可能ではないかという意見が出ました。海津市内の飲食店では地元野菜を使っていますよ、といったことになるのが理想ですが難しいと思います。ですが話題づくりとしては必要かと思います。どんどん業務提携を進めていくのがいいのかと思います。新規にレストランを運営するのは難しいですが、手法を変えればできるという意見になりました。 Ｃプランについては、耕作放棄というか土地が空いている農地というのが、山間部あたりの果樹園が多いとの事です。実際に貸し農園を行うにあたっても維持管理が難しいという話も出ました。現況果樹園ですので、そのまま貸すというのも難しいです。自由に作物を作れるような設定にするか、ＮＰＯなどの組織として果樹園運営をしていただければ可能なのかなと思いますが、工夫をしなければ難しいかもしれません。可能性として、わずかではありますが実施できる余地はあるかと思います。 Ｄプランについては、個人がシステムを立ち上げて行うことは難しいので、システム開発は市で行い、管理を委託するスタイルでいけそうですが、議論が進んでいませんので結論はでていません。 Ｅプランについては、これは一番現実的にできそうではないかという話になりました。グリーン・ツーリズムは、交流人口の拡大が目的で、市場をやることによって人が来ていただけるかどうか疑問ですが、例えば名古屋の松坂屋とか三越に軽トラで乗り付けて野菜直売をすることは、話題性があるし面白いと思います。そこで海津市の野菜を買った人が海津に対してのよい印象を与えることができるのではないかと思いました。これはイベントというか啓発、ＰＲの要素が大きいですが、そういった形でやると面白いのではないかという意見になりました。
事務局	ありがとうございました。 ここまでで、アドバイザーの先生方からご感想などいただきたいと思います。
川瀬委員	グリーン・ツーリズムの方法として、今あるものをマップに落として、ルート化するという提案があると思います。新たに作らなくてもいいので、資源をつないで編集し

杉山教授	て、ストーリーをつけて提案していくやり方があると思います。 素案見本のプランの中で思ったことを申し上げますと、Aプランは結構苦戦すると思います。見る、聞くということが受動的になってしまいます。よほど面白い話ができればいいのですが。実際市内を回っていく中で、自分自身が体験できるものがあったほうがいいと思います。 Ｂプランについては、新しくレストランを作るのは難しいのではないかと思います。既存のお店なりで、地元農産物とか伝統料理とか郷土料理とかあるものを組み合わせて、これもマップに落として紹介するやりかたが、ありきたりですが良いのかと思いました。 Ｃプランについては、郡上の明宝では耕作放棄地を活用して、民間団体が生協とタイアップして、基礎講座と応用講座を年間通して１０回くらい講座をやって見えます。年会費は万単位だったと思いますが、人気があります。このプランはやり方次第によっては成功する可能性もありますが、どこに話を持っていくかが重要です。 Ｄプランについては、個人的にはいい話だと思いました。似たようなことでバーチャルツアーなんかも考えると面白いと思います。 Ｅプランについては、現実的にはできる話だと思いますけど、道の駅とか朝市とか、むしろそっちのほうがいいのかと思いました。 ＡからＥまで個別に話しましたが、もし考えていただく、追加していくような話として申し上げますと、グリーン・ツーリズムの目的の中で、地域の農産物のブランド確立がありましたが、どうやって海津の農産物は作られているのか、どこでどうやって誰が作っているのかということを知ってもらうようなツアーがブランド確立の方策の１つかと思います。実際、そういったツアーは、飛騨とか東濃のほうとかで、消費者あるいはスーパーなどと提携して、産地見学ツアーというのは結構やられていますので、これは難しい話じゃないと思います。 グリーン・ツーリズムの目的として、交流人口の拡大とありますが、交流人口数の目標値を設定したほうが良いと思います。また、その場合のテーマとして「健康長寿」など何かテーマが必要です。地域ブランドの確立については、もっと絞ったほうがよいと思います。 以前のアンケート結果を見ますと、海津市の観光客は「愛知型・老人型」です。老人型ということは見学型です。グリーン・ツーリズムは、見学型を体験型にするというようになるので、これも一つの課題です。また、地域ブランドについては、オンリーワンであることが大切で、それを何にするのか。アンケートを見ますと、野菜が安い、川魚が旨い、というものがあがっています。これもオンリーワンといえますので、こうしたことを宣伝していくことが必要です。 実施事項では「自然環境、農山村地域もしくは健康長寿を狙いとしたスローツーリズム」と付け加えた方がいいと思います。 詳細プランのＡについては、千代保稲荷に来る人を、体験型に移すことが大事だと思います。海津の資源に「輪中と治水」がありますので、千代保稲荷に来た人を輪中と治水の見学コースに組み入れるといいかと思います。

	Ｂプランについては、長寿健康をテーマにした、地産地消の店を作る。千代保稲荷に来たら地産地消の店に寄って帰る、というコースにするのがいいと思いますので、どこかと提携するとよいでしょう。 またＡプランなら海津を中心にして、Ｂプランなら平田（千代保）を中心に考えていただくのがよいかと思います。また、秋になるのかもしれませんが、南濃町の水晶の湯と月見、そこが一つの目玉になって、例えば月見バーガーが食べられるとか、養鶏も多いので新鮮な卵もあるでしょうし、湯に使って月見ができるでしょうし、名古屋も展望できるということで、何かあるといいですね。 Ｃプランについては、南濃のミカンとか柿園を１本ずつオーナーを決めて、農業講座をやったり、収穫をやったりするとよいかと思います。 Ｅプランについては、積極的にＰＲするということでは、ニュース性がありますので他がやる前にやられるといいかと思います。 先ほど、田舎料理の話のときに、明誠高校が取り組んでいるという話ですが、グリーン・ツーリズムはまず市内のみなさん、また小学校中学校が郷土をしっかり学び、参加するという意味で、教育委員会を巻き込んで、食育型にして郷土を愛する心を育てる、そういったことを広めていくのもいいのではないのでしょうか。 海津には資源がたくさんあります。長良川のレガッタ場と農家とを結びつける。そういったことを考えていくのも課題です。また、もし可能であれば、連携が必要になってきますが、川くだりをして、この辺り（長良川サービスセンター）で降りられるといいですね。 アンケート結果は、評価できる意見、ヒントがたくさんあります。もう一度分析して検討されるとよいかと思います。
事務局	ありがとうございました。 事務局から質問をさせていただきたいと思います。 まず、川瀬委員のお話に、マップを作ってストーリーを考えると言われましたが、どのような意味合いなのでしょうか。他町村の事例など教えていただきたいと思います。 次に杉山先生にお聞きしますが、かねてからオンリーワンが大事であるとおっしゃってみえました。大事なのは理解できますが、例えば「デレーケ」がよく話に出ていましたが、グリーン・ツーリズムにどう結びつけるのか、ヒントをいただけるとありがたいです。
川瀬委員	新しく何かを作るのはエネルギーがいるので、既存のものをうまく繋げていくことが大切だし、すぐにできることじゃないのかという意味で話をさせていただきました。 ストーリーというのは、今点在する資源を関連性のあるもので結ぶ、そういうルートをいくつか作るという意味で申し上げて、そこに歴史的な物語があればいいんでしょうが、「食」だとこういうものがあります、農産物としてこんなものがあります、というルートでめぐっていただくと面白いんじゃないですか、という提案をマップ上に示すとわかりやすくなって、人の動きがでてくるのかと思います。

杉山教授	海津の輪中と治水は非常に有名ですが、デレーケはあまり知られていません。これを実際に見せるということは大事なことだと思っています。 例えばプランの中で、水との戦いコースがありますが、こういうところに入れていただくような形でいいと思います。
事務局	ありがとうございました。 今日は、素案の例というような形で出させていただきました。今回あげさせていただいたプランは必ずしも実施していくわけではありませんが、今日検討していただいたことを整理させていただいて、さらに内容を詰めたことを検討していただきたいと思います。年内中にはある程度、提案事項を固めてしまいたいので、次回から開催の間隔も短くなってまいりますが、会議へのご出席につきましてもご協力をお願いしたいと思います。 以上をもちまして第６回目の分科会を終了いたしたいと思います。